中　学　部　研　究

目　　次

Ⅰ　研究主題……41

Ⅱ　研究主題設定の理由
1　なぜ，生活に生かすことを考えるのか……41
2　生活に生かすためにどうするか……42
3　なぜ，国語科を取り上げたのか……44

Ⅲ　研究目的……45

Ⅳ　研究仮説……45

Ⅴ　研究内容・方法……45

Ⅵ　研究の実際
1　教育的ニーズに基づいた，生活に生かすことができる国語科の
指導内容や題材について考える……46
2　一人一人が主体的に学習することができるための，教師の支援の在り方を考える……50
3　一人一人の課題の明確化を図り，個別の指導計画の試案の作成を行う……51

Ⅶ　実践事例　　パソコンでの文字学習を通して，余暇の活用を目指したＬ児の取り組み

1　ワープログループの編成まで……52
2　指導の実際……56
3　まとめ……57
4　ワープロＡグループの今後の課題……58

Ⅷ　研究の成果と今後の課題……59

Ⅰ　研究主題

一人一人が学んだことを，生活に生かすことができる国語科の取り組み

Ⅱ　研究主題設定の理由

1　なぜ，生活に生かすことを考えるのか

(1) これまでの中学部の取り組みの成果から

○　生徒の発達段階を踏まえた，あるいは，系統性のあるきめの細かい指導計画に基づき，個に応じた指導や生活に生かす取り組みが行えた。

○　しかし，ライフスタイルが多様化した現在においては，生徒の発達段階や，系統性のある指導計画を踏まえつつ，一人一人の生活に生かすことを，より一層大切にしたいと考える。

生徒を発達的に見ていく必要性，系統的な指導をしていく必要性を踏まえて

⇩

一人一人の生活にとって，必要なことは何かを考える必要性

(2) 一人一人の生活にとって必要なことを明らかにするために

○　一人一人のライフスタイルについて知る必要がある。

○　将来の豊かな生活を過ごすために必要なことについて，十分に話し合う必要がある。

⇩

○　一人一人の生活を考えた上で，教育的ニーズを把握することが大切である。

【教育的ニーズとは】
子供や保護者，地域社会の要望，教師の願い等から導き出された，生徒一人一人が豊かな生活を送るために必要な事柄

2　生活に生かすためにどうするか

(1) 教育的ニーズを踏まえることを大切にする

手順

○　アセスメントを実施し，一人一人の課題を把握する。
○　教育相談や家庭訪問等で生徒や保護者等の要望を把握する。
○　子供や保護者の意見を聞く会で，教育的ニーズについて十分に話し合う。

○　一人一人の課題や目標について，学部での共通理解を十分に図る。
○　生徒や保護者等の要望を大切にする。
○　話し合いを基に，指導目標を具体的・段階的に考える。

(2) 指導内容の精選を考える

これまでの取り組みを振り返って

○　発達段階や系統的な内容を踏まえて，生活の基盤となる事柄については身に付けてきた。

○　しかし，一人一人のライフスタイルに基づいた生活に生かすという視点での取り組みは十分ではなかった。

○　学習する内容が多すぎて，見通しが持ちにくかった。（図１）

図１　指導内容の課題

○　そこで，学習したことを，より一層生活に生かせるように，あれもこれもと多くのことを学習するのではなく，**一人一人にとって何が必要なのか（教育的ニーズ）ということを大切にして，指導内容を思い切って精選したい。**

○　これまでの取り組みを踏まえて，**将来や現在の生活を豊かにするために，今後更に生活に生かすという視点から指導内容を見直したい。**

【精選の視点】

○　一人一人の生徒にとって必要なことは何かということを大切に考える。
○　実生活に生かすことができる（生活の道具として使える）ということを，より一層重視する。

(3) 題材（単元）の精選を図る

○　一人一人の教育的ニーズを踏まえた内容を，直接取り上げたい。

○　時間を掛けて一人一人の学習のペースを尊重し，自ら考えたり，活動したりする機会を多く持てるように，題材(単元)を思い切り精選したい。

○　各題材（単元）で扱う中心的な内容については，継続的に学習することができるようにすることで，題材（単元）が変わっても，見通しを持って自ら考えたり，活動したりできるようにしたい。

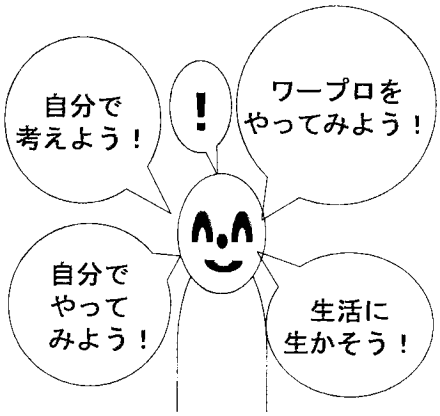


図２　題材の精選について

○　生活に生かすという視点で，家庭と共通して取り組めるような題材について精選したい。（図２）

【精選の視点】

○　一人一人の教育的ニーズを踏まえた内容を取り上げられるような題材（単元）を考える。

○　自ら考えたり，活動したりすることができるように題材（単元）を考える。

○　実生活に生かすことができる（生活の道具として使える）ということをより一層重視する。

(4)　一人一人が主体的に活動できるような，支援の在り方を考える

○　なぜ，主体的に活動できるような，支援の在り方を考えるのか

○　生徒一人一人が将来の生活を豊かに過ごす上で，主体的に活動することが大切であるのではないか。

○　指導内容や題材（単元）の精選を行うだけでなく，生徒自身が自分で考えたり，活動したりすることで，学んだことをしっかりと生活に生かすことができるのではないか。

○　一人一人が主体的に取り組むことができるような支援の在り方を，家庭等と共通理解することにより，学んだことを将来の生活に生かすことができるのではないか。

そこで

主体的に活動できるような支援を行うことで，
将来の生活に生かすことができることを大切にしたい。

3　なぜ，国語科を取り上げたのか

(1) 本研究で中学部が担う役割

○　中学部では，指導内容の選択・組織の際に，**一人一人のライフスタイルを踏まえた内容，生活の道具として使える内容**について重視していきたいと考える。

⇩

○　教育課程編成に当たって，教科別の指導における，一人一人のライフスタイルを踏まえた内容や生活の道具として使える内容がより明確に考えられないか。

(2) 教育的ニーズを踏まえて

子供や保護者の意見を聞く会を行い，生徒自身や保護者との十分な話し合いの結果を基に教育的ニーズを分析したところ，教科別の指導の中で，国語科に関する事柄も多いことが明らかになった。

○　困ったときに，自分の意思を自分なりの方法で伝えること。
○　生活に必要な文字の読み・書きを身に付けること。
○　パソコンやワープロを使って文字への関心を高めること。

(3) 新しい学習指導要領から

【知的障害者を教育する養護学校の中学部の国語科の目標】

○　「**日常生活に必要な国語**についての理解を深め，表現する能力と**態度を育てる。**」と明記されており，**生活に生かせることがより一層重要**とされている。

【中学校の国語科の目標】

○　新たに**「伝え合う力」**が加えられ，人間形成に資する国語科の重要な内容であると示されている。

⇩

○　まずは，教科別の指導の国語科の取り組みを通して，生活に生かすことができるような指導内容や題材等について考えたい。

⇩

○　そして，他の指導の形態についても，国語科の取り組みを踏まえて指導内容や題材の精選を行いたい。

Ⅲ　研究目的

○　子供や保護者，教師の願いを踏まえ明らかになった教育的ニーズを基にして，将来の豊かな生活につながる国語科の指導内容及び題材についての精選を図る。

○　精選した指導内容及び題材を基に，一人一人が主体的に学習するための支援の在り方を，授業実践を通して探る。

○　上記のことを踏まえ，一人一人の課題を明確にし，個別の指導計画の試案についての検討を行う。

Ⅳ　研究仮説

○　教育的ニーズを基に，国語科の指導内容や題材を精選したり，焦点化したりすることにより，生徒自身が生活に生かすことができる力を身に付けることができるのではないか。

○　精選した題材を基に授業実践を行いながら，具体的な支援の方法や指導の場の工夫を検証することで，一人一人が主体的に学習することができるための支援の在り方を探ることができるのではないか。

○　個別の指導計画を作成することで，一人一人の教育的ニーズを踏まえた指導内容や題材，一人一人に応じた支援の在り方についての実践を更に深めることができるのではないか。

Ⅴ　研究内容・方法

○　教育的ニーズを基にした，生活に生かすことができる国語科の指導内容や題材について

・　教育相談及び家庭訪問で，一人一人のライフスタイルに基づく子供や保護者の要望等について確認する。
・　国語科のアセスメントを実施して，一人一人の国語科の課題を把握する。
・　子供や保護者の意見を聞く会での子供や保護者，教師の願い，アセスメントからの課題等を踏まえて，保護者と十分な話し合いを行い，教育的ニーズを確認する。
・　教育的ニーズを基に指導内容を精選し，学習グループの編成や題材の検討を行う。
・　指導上の課題と成果についての評価から，指導内容や題材を再検討する。

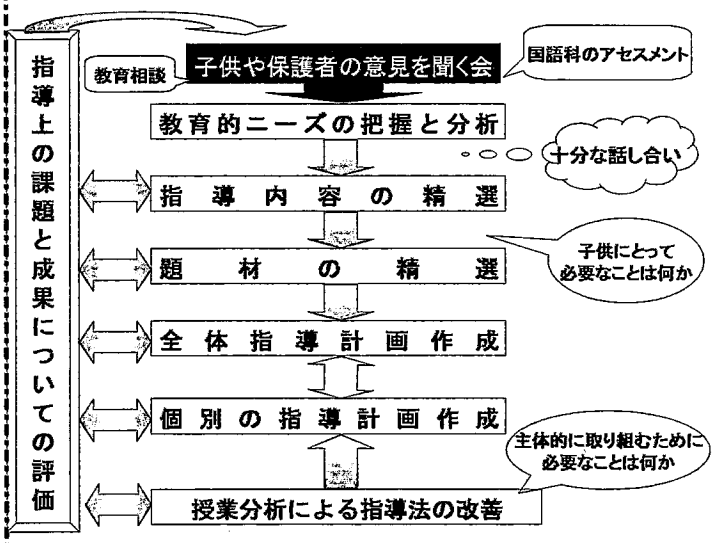


図３　中学部研究の構造

○　一人一人が，主体的に学習することができるための教師の支援の在り方について

・　ＶＴＲ等での授業分析により，主体的に活動するために必要なことについて共通理解を図る。
・　一人一人が主体的に学習することができるような，教師の支援について検討する。
・　授業実践やＶＴＲ等での授業分析を通して，一人一人に応じた支援の在り方を検証する。

○　一人一人の課題を明確にした，個別の指導計画の試案の作成について

・　国語科のアセスメントを一人一人の生活という視点から見直し，実施することで，一人一人の課題を明確にする。
・　授業実践により明らかになった一人一人への支援の在り方を基に，一人一人に必要な指導内容や題材について再検討する。
・　上記のことを踏まえ，個別の指導計画の試案を作成する。

Ⅵ　研究の実際

1　教育的ニーズに基づいた，生活に生かすことができる国語科の指導内容や題材について考える

(1) 子供や保護者の意見を聞く会及び初期アセスメントから

○　**バス停の名前が読めたり**，簡単な**メモが取れたり**，**電話を掛けることができたり**といったような，**生活の中で使えるような国語科の力**をもっと身に付けてほしい。
○　子供が**興味・関心を持って取り組めそうなワープロ等**について学習する機会を設定してほしい。
○　自発的に話すことができるようになってほしい。また，**自分の要求を伝える**ことができるようになってほしい。
○　**生活の中で使える，平仮名や片仮名の読み書き（住所，氏名，身近な商店名，買物メモ等）**ができるようになってほしい。

(2) 国語科に関するアセスメントから明らかになったこと

平成10年度は，全生徒について，平成11年度には，新入生について１学期に国語科に関するアセスメントを実施した。

国語科に関するアセスメントの内，聞く，話す，読む，書く等の基礎・基本的な領域については先行研究において作成されたものを参考に，一部加除修正して実施した。

国語科に関するアセスメントの結果，次のようなことが明らかになってきた。

○　あれもこれもというように多くのことを学習していては，指導内容が十分に定着していないこと。**（精選の必要性）**

○　一人一人の生活を大切にした，**生徒たちにとって本当に必要な国語科の内容**について考える必要があること。

○　**聞く・話す・読む・書くということを，生活に生かすことができるという視点で取り組めるように**，より一層の見直しをする必要があること。

(3) 子供や保護者の意見を聞く会での本人・保護者のニーズ，国語科のアセスメントの分析から明らかになったこと

・　教育相談や子供や保護者の意見を聞く会等での国語科に関する要望や国語科のアセスメントを基に，国語科に関する教育的ニーズについて分析を行った。（表１）

表１　国語科に関する教育的ニーズ

氏名	聞く	話す	読む	書く	国語科に関する教育的ニーズ
A児		○			文字への興味・関心を高める（ワープロ等の活用）
B児			○	○	身近なもの（バス停，店）についての漢字の読み，日記
C児		○		○	ワープロでの文書作成（文書作成，表・実務面まで）
D児	○	○			絵カード等での意思の伝達
E児			○	○	文字への興味・関心を高める（ワープロ等の活用）
F児		○		○	日記や手紙・はがきを書くこと（文を構成する力）
G児			○	○	パソコン, e-mail の活用（文字を通してのやり取り）
H児	○	○			コミュニケーションに関する事項・サイン習得等
I児			○	○	日記・手紙を書くこと（身近な文字の読み・書き）
J児	○	○	○	○	自発的に話すこと，名前のなぞり書き
K児			○	○	生活で使える平仮名，片仮名の読み・書き
L児			○	○	パソコンの利用（平仮名の習得，家庭での余暇活動）
M児			○	○	パソコン, e-mail の活用（文の構成力）
N児			○	○	ワープロの利用（文字への興味・関心，家庭での余暇活動）
O児	○	○	○	○	電話，メモの活用（助詞の使い方，文の構成力）
P児	○	○			絵カード等での意思の伝達
Q児			○	○	パソコンの活用（文字への興味・関心，家庭での余暇活動）

(4) 指導内容と題材の精選に当たって

・　国語科に関する教育的ニーズの結果を基に，わたしたちは指導内容や題材を精選する際に次のようなことを考えた。図４はこれまでの手順を示したものである。

【学習グループ編成に当たって】

○　保護者や生徒自身の要望，アセスメントの結果，教師の願い等を十分に考慮した上で，**指導内容の精選を行う**こと。

○　精選した指導内容を基に，**教育的ニーズに基づいた学習グループを編成**すること。

○　学習グループは，固定するものではなく，**教育的ニーズに応じて柔軟に対応する**ことができるようにすること。

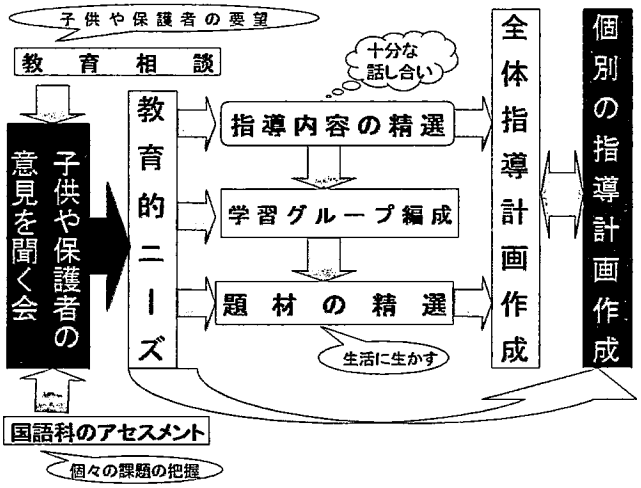


図４　教育的ニーズを踏まえた指導内容・題材の精選の手順

【題材の精選に当たって】

○　生徒自身が**見通しを持ちやすい**ものを考えること。

○　**思い切った精選**を行い，**一人一人のペースを尊重**できるように，時間を掛けて繰り返し取り組むことができるものにすること。

○　生徒が見通しを持ったり，自分で考えたりすることができやすいように，題材が変わっても**中心的に学習する事柄については継続的して取り組む**ことができるようにすること。

○　題材や学習グループについては，教育相談等で**十分に話し合い，ねらいや取り組みの状況等について，常に保護者と共通理解する**こと。

○　**指導期間は，２学期から次年度の１学期までの一年間**とすること。

(5) 指導内容と学習グループ編成の実際

ア　教育的ニーズを踏まえる

表１に示されるように，わたしたちは，国語科に関する教育的ニーズについて分析を行った。

この結果を基に，以下の観点から指導内容について学部の全教師で検討を繰り返した。

○　生活に直結した文字の読み書きに関すること。

○　ワープロやパソコンの活用による文字の読み書きに関すること。

○　電話を掛けたり，メモを活用したりすることに関すること。

○　相手に，より分かりやすい伝達手段を用いて自分の意思を伝えること。

そこで，**日記・手紙，ワープロ，電話，「ことば」**の四つの指導内容を考えた。

イ　指導内容について保護者と話し合い，学習グループを編成する

わたしたちは，教育相談において，教育的ニーズを踏まえて精選された四つの指導内容を保護者に提示して，十分な話し合いを行った。複数の指導内容についての要望があった場合は，話し合いを基に指導内容の絞り込みを行い，一人一人について必要な指導内容を決定した。

さらに，四つの指導内容を基に，一人一人の教育的ニーズにこたえることができるように六つの学習グループを編成した。（表２）

表２　　平成１１年度　　国語科学習グループ編成

	日記・手紙	電　話	ワープロＡ	ワープロＢ	「ことば」Ａ	「ことば」Ｂ
氏名	Ｂ児，Ｆ児 Ｉ児，Ｋ児	Ｏ児	Ａ児，Ｃ児 Ｅ児，Ｌ児 Ｎ児，Ｑ児	Ｇ児 Ｍ児	Ｈ児	Ｄ児，Ｊ児 Ｐ児

ウ　指導内容や学習グループについての再検討を行う

学習グループについては，一年間のスパンで指導を行い，教育相談において取り組みの成果と課題について保護者と話し合った。

新学年の１学期に，教育的ニーズの変更等についても確認を行い，指導内容や学習グループの再検討を行い，新しい編成を考えた。

(6) 題材の精選の実際

ア　教育的ニーズを踏まえた題材を考える

○　題材を検討する際に，一人一人の教育的ニーズを踏まえ，特に，生活に生かすという視点について大切にした。

例：　日記・手紙グループでは，自分の住所や名前が書けるようになってほしいという教育的ニーズを踏まえて，「暑中見舞いを書こう」，「運動会の案内状を書こう」「年賀状を書こう」といったような題材を設定し，手紙やはがきを書くことに時間を掛けて，繰り返し取り組んだ。

イ　アセスメントで明らかになった題材における一人一人の基礎・基本を踏まえる

○　一人一人がどのような国語科の力を身に付けてきているのかを，アセスメントを基に確認し，一人一人にとって何を学習する必要があるかについて考えた。

例：　日記・手紙グループのＢ児は，文字を書く際に「さ」「き」「ち」が左右逆の鏡文字になってしまう。そのため，これらの文字について正しい文字の習得への支援を行う必要があると考えた。

また，身近な地名等への漢字の読みに対する興味・関心が高まってきているため，住所等についての漢字の読みを学習活動に取り入れたいと考えた。

2　一人一人が主体的に学習することができるための，教師の支援の在り方を考える

(1) 生徒の主体的な姿とは

わたしたちは，ＶＴＲ等を活用した授業研究を通して，生徒一人一人の活動の様子や教師の支援の在り方を振り返った。そして，生徒一人一人が主体的に活動することができるために，まず，次のようなことについて大切にしたいと考えた。

活動に見通しを持ち，その後生徒が自分なりに考えたり，気付いたりしながら行動している姿が主体的であるということ。

(2) 生徒が主体的に学習するための教師の支援とは

中学部では，上記のことを踏まえ，主体的に学習することができるための支援について次のようなことを考えた。

ア　見通しが持ちやすいような教師の支援により，生徒自身が自分で気付いたり，考えたり，判断したり，自分なりに試行錯誤しながら解決しようとすることができるようになるのではないか。

イ　見通しを持ち，自分で考えたり，気付いたりすることで，やってみよう，やってみたいと活動に意欲的に取り組んだり，興味・関心を持って，活動を楽しもうとしたりすることもできるのではないか。

【わたしたちが大切にしたいことは】

まず，**見　通　し　を　持　つ　こ　と**

そして，**自分で考えたり，気付いたりすること**

わたしたちは，このようなことを基に，一人一人が主体的に学習することができるための具体的な支援の在り方について検討したいと考える。

(3) これまでの支援の課題とは

まず，わたしたちは，これまでの支援の在り方の課題について，具体例を持ち寄りながら検討した。その結果，次のようなことが課題として挙がってきた。

・　教師主導ではなかったか（必要以上の指示を行っていなかったか）。
・　生徒が見通しを持ちやすい導入を行っていたか。
・　生徒が自分で考えているのに，先に答えを言っていなかったか（じっくりと待つことができていたか）。
・　生徒が興味・関心を持つような教材・教具やヒントの提示の仕方を行っていたか。
・　無理な質問をしたり，分かっていることを質問したりしていなかったか（一人一人の課題を踏まえていたか）。
・　同じような提示の仕方をしていたために，一部の生徒しか見通しが持てていないというようなことはなかったか。

(4) 教師の支援の在り方の観点について

次に，わたしたちは日ごろの授業実践のＶＴＲを検討することで，生徒一人一人が主体的に学習することができるような支援について次のように考えた。

・　実態の分析を十分に行い，課題を明確にしておく必要性があること。
・　見通しが持ちやすいような，教材・教具の工夫や提示の工夫，学習の場の設定の工夫が必要であること。
・　活動について予告をすることで次に何をすればよいか分かりやすくすること。
・　ヒントの与え方（写真や絵，具体物，文字，言葉掛けをどのように行うか）についても生徒一人一人の特性等（視覚優位，聴覚優位等）に応じた手だてを考えること。
・　生徒が自分で考えたり，気付いたりするための，手だてを複数用意する必要があること。

このことは，まだ研究が十分に深まっていないこともあり，今後，更にＶＴＲ等を利用して授業分析を行い，具体例を持ち寄りながら，主体的に学習することができるような支援の在り方について，明らかにしたいと考える。

３　一人一人の課題の明確化を図り，個別の指導計画の試案の作成を行う

(1) 一人一人の課題を明確にして，指導内容や題材について，より一層の精選を図る

○　新学習指導要領で，個性尊重や基礎・基本の精選と徹底が挙げられている。中学部の国語科の学習においても，一人一人にとってどのようなことが必要かを考えることが重要である。
○　一人一人の生徒にとって必要なことは何かを明確にすることで，指導内容や題材をより一層精選し，ゆとりある学習の状況の中で，学習したことが確実に定着できるような学習活動を考えたい。
○　一人一人の教育的ニーズに応じた指導を行う際の，一人一人の課題や指導内容を明確にするために，国語科のアセスメントの内容について再検討したいと考える。

(2) 個別の指導計画の試案を作成する

○　精選された国語科の指導内容や題材を基に，一人一人にどのような学習活動を用意すればよいかということについて考えたい。
○　授業において，一人一人にどのような支援を用意して，具体的にどのような支援を行えばよいかということについても考えたい。
○　今後の個別の指導計画の作成において，一人一人に必要な指導内容等や支援の在り方についての明確化を図りたいと考える。

Ⅷ　実践事例

パソコンでの文字学習を通して，余暇の活用を目指したＬ児の取り組み

ここでは，Ｌ児（３年，男）の事例を通して，ワープロＡグループの取り組みについて検証したい。

１　ワープログループの編成まで

(1) Ｌ児の実態

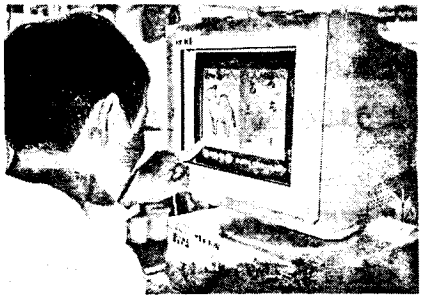
アセスメントを実施し，一人一人の実態を把握した。「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域に加えて，国語で身に付けた力を，生活に生かしているかという視点から電話の利用や手紙を書くための知識などについても調べた。

表３　　Ｌ児のアセスメント結果　　（平成11年６月現在）

領　域	アセスメント結果
「話すこと・聞くこと」	・　要求は自分から伝えてくる。見通しが持てずに不安定になることがあるが，機嫌がいいと自分から好きな歌や言葉でかかわってくる。 ・　指示理解はできるが，こだわりのためにその通りに行動できないこともある。昨年度までは，「生単が終わったら？」というようなスケジュールの確認が多かった。 ・　エコラリアがある。自分の経験したことについては，ヒントになる具体物等を提示すると，「○○した。」と正しく答えることができる。 ・　簡単なお使いについては，相手からの働き掛けがないと難しい。

「書くこと」	・　自分の名前は平仮名で書ける。平仮名は視写できるが，片仮名は間違いが多い。 ・　パソコンで好きな歌や言葉を，手本を見ながら，あるいは教師と一緒に打つ。
「読むこと」	・　自分から本を読むことはない。友達の名前や曜日等，漢字で読めるものがある。形が似ている平仮名は，間違いが多い（ぬ→め，れ→わ，ま→は）。 ・　片仮名については，ほとんど読めない。よく見る「スーパーニュース」，「サザエ（さん）」等は形や記号として覚えており，読める。
電　　話	・　学校では，簡単な応答（「もしもし」と言ったり，返事をしたり，名前を名のったり）ができたが，家庭では電話に出たことがない。ベルが鳴ると横を通り過ぎながら「はい，○○（名前）です。」と言う。 ・　公衆電話では，テレホンカードを入れる場所がよく分からない。電話番号は自分だけでは押せず，分かる数字（２，５）については押せた。
手　　紙	・　はがきと手紙を提示すると正しい方を選べる。 ・　はがきの，切手を張る箇所，郵便番号を書き込む所が分かっていない。あて名と自分の名前は，視写しながらほぼ正確に記入できた。

(2)　Ｌ児の国語科に関する教育的ニーズを導き出す手順



【これまでの状態像から】

- 見通しが持てず，授業中も不安定になりやすかった。
- 自分から活動に参加する姿が，あまり見られなかった。
- 言葉を読むことはあるが，書くことは難しい。
- 平仮名の正確な読みが，定着しない。

【ワープロ，パソコンについて】

- ワープロ（パソコン）には，興味を示した。
- 自立活動においても，主体的に取り組んでいる。
- 休み時間に教師とホームページを見たり，壁紙（ＣＭの文字）を自分から見たりする。

【子供や保護者の意見を聞く会から】

- 家庭でも不安定になることがある。
- ドライブ，テレビと趣味が限定されている。
- 学校での様子を聞き，家庭でもパソコンを購入した。余暇でも活用したい。
- 平仮名が読めるようになってほしい。
- 学習に，楽しみながら取り組んでほしい。
- 大人の支援を少なくしていきたい。

【教師の願い】

- ワープロ（パソコン）に絞れば，文字の学習に見通しを持って取り組めるのではないか。
- シールを張るなどの支援の工夫で，自分で考えて学習する場面を作っていけるのではないか。
- 余暇で利用できるよう，保護者の願いに応えたい。
- 平仮名や漢字を学ぶよい手段となるのではないか。

【L児の国語科に関連する教育的ニーズ】

○　何か好きなことを見つけて，自分から行うようになってほしい。
（ワープロ，パソコンを使って，余暇を過ごせるようになってほしい。）
○　平仮名が読めるようになってほしい。
○　自分の気持ちを，言葉で表現できるようになってほしい。

(3) ワープログループでねらうこと

【生活との結び付きから】

・　ワープロやパソコンの操作方法を覚えて，家庭でも余暇で使えるようになったり，将来の生活に生かすことができるようになる。

【国語科として】

・　文字への興味・関心を高める。
・　文字を文字として弁別したり，注視したりできるようになる。
・　書くことは困難でも，自分や身近なものの名前が読めるようになる。
・　文字の読みを覚えて，正しく発音できるようになる。
・　平仮名や片仮名を覚えて，正しく表記することができるようになる。
・　意思を伝える力を高める（簡単な語句で表現したり，覚えた言葉でのやり取りを楽しんだりできるようになる）。

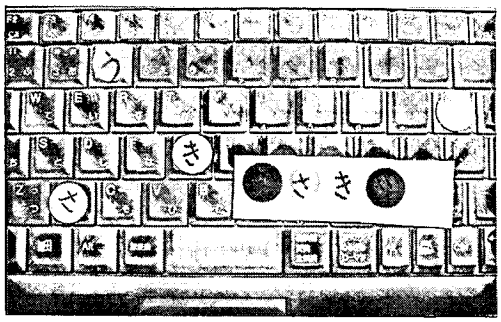
(4) ワープログループで大切にしたい支援の在り方について

【主体的に活動することができるために】

○　**見通しを持って**活動できるように，毎時間の**学習の流れをパターン化したり**，一単位時間の指導内容に**多くを盛り込まないようにしたりして**，**繰り返し取り組むことができる**ようにする。
○　最初からすべてのヒントを提示するのではなく，穴埋め問題にして繰り返し取り組む場を設ける等，**自分で考えたり**，**気付いたりしながら活動できる**ようにする。
○　準備や後片付けまで自分で行えるように，フロッピーディスクのケースを色分けしたり，ファイル，コンセント等も定位置に置いたりして，**自分で気付いたり**，**考えたりして道具の配布や接続ができる**ようにする。

支援の具体例

「自分で考えたり，確かめたりして，好きな言葉や時間割を書くために」



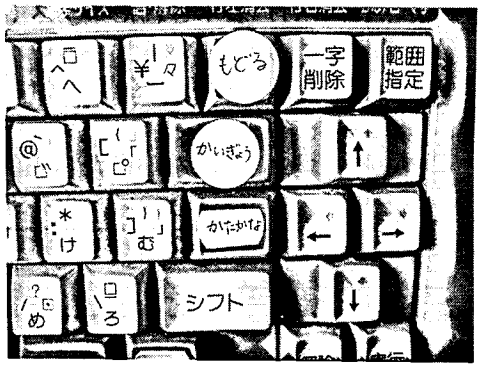
○　キーボードにシールを張る（課題に応じて）。

【色分けしたシールでマッチングさせながら，名前が入力できるように】

・　本児の好きな「うさぎ」が一人で書けるように手本と同じ色のシールに，平仮名のみを張って，見やすくする。

・　「う」(赤)「さ」(黄)「き」(白)「゛」(青)　→濁点のキーも覚えて，一人で打てるようになった。

【変換や後退，改行の機能が使えるように】



・　間違えたときの訂正や改行，英数変換や片仮名変換が一人でできるように，平仮名のシールを張った。

・　初めは，教師と一緒に「もどる」「かいぎょう」等を読んで，使うキーを覚えることができるようにした。

・　今では，間違えたときに「もどる」と言って，自分でキー操作ができている。

【生活に生かすことができるようになるために】

○　**興味・関心を大切に**しながら，名前（自分や家族）や時間割等，**将来にわたって必要度が高いもの，現在の生活において触れる機会が多い言葉**等を扱うようにする。

○　**家庭との連携**を図る。学校でできるようになったことについて**同じ方法での**取り組みにより，定着を図る。

○　家庭でのパソコンの購入を機会に，ワープロからパソコンへの切り替え等，**教育的ニーズの変更**に基づいた，指導内容やグループの変更等について**柔軟な対応を行う。**

支援の具体例

「家庭でも，ワープロやパソコンを使うために」

1　家庭でも，学校と同じようにキーボードにシールを張ったり，学校と同じ課題に取り組んだりする（濁音やよう音を中心に）。→本児が，保護者に濁点の打ち方を教えることもあった。父親と過ごす時間が増えた。

2　学校での取り組みの様子を報告し，家庭でも同じ種類のパソコンソフトを購入した。
→最初は課題で取り組むが，現在，家庭において一人でも楽しんで使っている。

2　指導の実際

(1) 指導内容

平成11年度　2学期

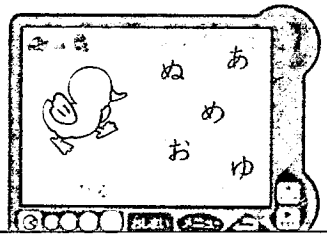
題材名　「パソコンで，いろいろなものの名前や言葉を書こう」

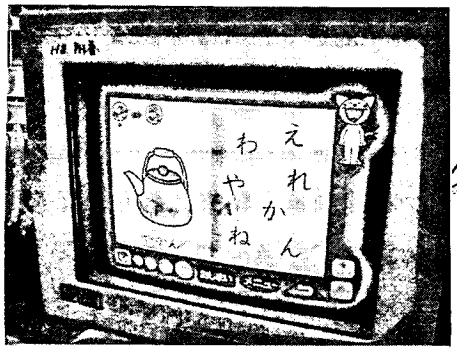
○　パソコンの基本操作（起動から文書作成，印刷，終了）を覚える。

1　パソコンで文字を入力する。
　(1) 自分の名前を書く。（平仮名を漢字変換する。）
　(2) 時間割を書く。
　(3) 自分の書きたいものを選んで書く。
　　・　アニメの主題歌やアナウンサーの名前等を手本を見たり，教師の言葉掛けを聞いたりしながら書く。
　　・　シフトキー，改行，後退キーは，張ってあるシールを手掛かりに使う。
2　フロッピーディスクに保存する。
3　印刷し，印刷したものを読んだり，修正したりして，自分のファイルにとじる。

○　パソコンソフトを使って，いろいろなものの名前を書いたり読んだりする。

1　パソコンソフトの中のゲームをしながら，いろいろなものの名前を書く。
　(1) 表示されたイラストを見て，名前を考える。
　(2) 似ている文字の中から正しい平仮名を選ぶ。（マウスの使用）
　(3) 間違いはキャラクターが教えてくれるので，正しい名前を書けたら正解の合図を基に，一文字ずつ読む練習を行い，次へ進む。





矢印をクリックしてイラストが表示されると，「やかん」と名前を言います。そして，平仮名を探します。

例えば，この画面では「や」と似ている形の「わ」や「か」の形を選んでしまうという間違いが多いのですが，キャラクターが「当たり！」と言うまで，正解を出そうと頑張ります。

無事「やかん」と穴埋めができました。

正解になると「やったー！」と言って，次は読む練習をします。「や，か，ん」と一文字ずつ指さして読みながら覚えます。終わると“進む”のボタンをクリックして次の問題へ進みます。

家庭でも，起動から終了まで一人で行っています。

学校と同じ方法で取り組んだので，覚えた平仮名や身近なものの名前が増えました。

(2) 指導経過

教育的ニーズを基に保護者との話し合い，国語科における目標を設定した。

L児ができるようになってきたことの確認やパソコンの使い方について，家庭訪問や日ごろの登下校の送迎の機会をとらえて，保護者と共通理解を行った（2学期の取り組みの成果と課題については次に示したとおりである）。

目標	○ 手本を見たり，教師の言葉掛けを一文字ずつ聞いたりしながら，パソコンで文字を入力することができる。
【成果】	・ 自分の名前を平仮名で正確に書いたり，読んだりできるようになった。漢字を覚えて，名前は自分から漢字で書くこともある。 ・ 教育的ニーズの変更でワープロからパソコンへ切り替える。最初はキーを押し続ける失敗が多かったが，2学期は間違いが少なくなった。 ・ 時間割についても，読める文字が増えた。自分でも時間割の確認ができ，納得できることが多いせいか，不安定な状態で「生単の後は？」とスケジュールを尋ねることがほとんどなくなり，見通しを持って学校生活を送れるようになってきている。 ・ 家庭でもパソコンや同じソフトを購入し，パソコンに向かう時間が増えた。 ・ 平仮名については，キーボードにシールを張らなくても，文字を探して入力することができるようになった。 ・ 身の回りのものの名前を，正確に覚えつつある。 （例：毛糸を「まり」と読んでいたが，「け・い・と」と正しく読めるようになった。）
【課題】	・ シフトキーの使い方を忘れることもあるので，継続して取り組む必要がある。 ・ さぎょう→さぎょぅ，びじゅつ→びじゅっ等の間違いや，「ぬ」と「め」，「わ」と「れ」等の似た文字の間違いが見られるため，家庭でも，継続して同じ学習に取り組む必要がある。 ・ パソコンの詳しい操作については，十分見通しが持てていないため，操作についての手順等を分かりやすく提示することで，見通しを持てるようにする必要がある。 ・ 家族の名前等についても入力できるように，使える文字を増やす必要がある。

3 まとめ

今回の取り組みについて，以下のようなことが明らかになった。

【生活に生かす】	○ 教育的ニーズを踏まえながら家庭との連携を図れたことで，**家庭でもパソコンを使って学習ソフトを活用して自分なりに時間を過ごしたり，インターネットやメール交換を行ったりした。このように，余暇活動に生かすことができる**ようになってきた。 ○ なかなか自分から取り組むことが難しかった活動にも，**できることを生かして取り組める**ようになった。 （例：生活単元学習での招待状作成や賞状，名札作成等） ○ 自立活動においても，自分の好きな画像を選んで，文字を添えて家庭にメールを送る等の取り組みを行い，**楽しみや自信につながった。**

【国語科では】	○　平仮名を自分から読んだり，書いたりすることがあまりなかったが，ワープロでなら自分の名前を一文字ずつ入力できるようになる等，少しずつ，**文字への興味・関心が高まってきた。** ○　似ている文字の判別が難しくても，パソコンソフトを使うことで，一人で調べる等の学習ができるようになり，**正しく読める平仮名が増えてきた。** ○　**平仮名や漢字の読みを覚えて，正しい発音を意識**できるようになってきた。 ○　自分が聞きたい歌や好きなフレーズ等，授業の中で覚えた言葉を自分で書こう（パソコンで入力）としたり，それを教師との言葉でのやり取りで使ったりする等，**意思を伝える力の高まりが見られるようになってきた。**

【主体的な活動への支援】	○　キーボードにシールを張り，それを手掛かりにして「さぎょう」や「びじゅつ」といった，よう音混じりの教科名も，一人で入力するようになってきた。 ○　興味・関心のある事柄の中から本児が**書きたいものを選択**できる場面を作った。すべて手本を見て書くのではなく，繰り返していく中で，穴埋め問題にする等，**自分で考えて**言葉を完成させるようにした。手順に**見通しを持って，自分で確かめて**後退キーを使い，訂正できるまでになってきた。 ○　毎時間の**学習の流れをパターン化**したり，本児なりの**学習のペースを尊重**したりしたことで，自分から「次は○○する」と言って取り組む等，**見通しを持って活動できる**ことが増えてきた。 ○　本児の**興味・関心のあるもの**，現在のあるいは将来の生活において**必要度が高いものや触れる機会が多い言葉等を扱った**ことで，国語科以外の活動においても文字を読んだり，見通しを持って取り組んだりすることが増えてきた。

4　ワープロＡグループの今後の課題

○　取り組みについて家庭と共に評価を行い，ワープロやパソコンの活用を通して身に付けてほしい力は何か，余暇活動にどのようにつなげていくかといったようなこと等，十分に話し合いながら，一人一人にとって必要なことを把握し，分析に努める。

○　生徒が見通しを持ちやすいような工夫や，自分で気付いたり考えたりすることができるための，支援の軽減や改善等，一人一人への支援の在り方について検討する。

○　国語の授業において主体的に活動できるだけでなく，覚えた文字や言葉を繰り返し使ったり，ワープロ，パソコンの活用場面を広げていったりするために，操作方法や支援の工夫等について，保護者と共通した取り組みを行い，定着を図る。

Ⅷ　研究の成果と今後の課題

今回の研究における成果と今後の課題について，わたしたちは以下のように考えた。

○　教育的ニーズを基にした，学習グループの編成や指導内容，題材の精選について

【成果】	・　指導内容や題材を精選することで，生徒一人一人の学習のペースを大切にしながら繰り返し活動に取り組むことができた。 ・　実際の生活に生かせる内容を検討したことで，学習したことを家庭生活や社会生活でも活用する姿が見られた。また，家庭でも共通した取り組みが行えた。 ・　地域社会に出掛けての学習活動が増え，地域の方が生徒にどのようにかかわればいいのか知ってもらえる機会が増えた。 ・　国語科でどのようなことをやりたいかについて，保護者や生徒自身が積極的に考える機会が増えた。 ・　保護者に指導内容や指導経過を説明し，何を，どのように行っているのか，どのような成果と課題があるのか等について，保護者と十分に話し合うことができた。
【課題】	・　子供や保護者の意見を聞く会，アセスメントの結果を分析し直し，教育的ニーズを基にした，指導内容や題材の再編成を行う。 ・　教育的ニーズの導き出し方について教官の相互研修を深め，保護者とより一層の共通理解を図り，指導内容や題材，学習グループについての再検討を行う。

○　一人一人の生徒が，主体的に学習することができるための教師の支援の在り方について

【成果】	・　授業分析を通して，学部の全教官で，教師の支援の在り方についての共通理解が図れた。 ・　中学部で大切にしたい授業の観点が明らかになり，生徒が見通しを持って学習することができた。 ・　教師が必要以上の働き掛けをしないように，生徒一人一人が考える過程をじっくりと待ち，生徒自身が自分で考えたり，気付いたりすることができた。 ・　学習指導案を検討することで，中学部で大切にしたいことは何か，支援の際に大切にしたいことは何かというようなことについて明らかにすることができた。
【課題】	・　授業分析の観点を更に探り，授業研究等を基に，教師の支援の在り方を考える。 ・　それぞれの学習グループで，工夫していること（指導の場，教材・教具等）について相互に検討し，研修を深める。 ・　一人一人の課題，目標，指導内容，支援の在り方，評価が明確に分かるような学習指導案について更に検討を行う。

○　一人一人にとって必要な国語科の内容は何かということについて

【成果】	・　指導内容や題材を絞り込んだことで，国語科の活動で一人一人に応じた指導内容をより細かく見直していく必要性について教官同士で共通理解を図ることができた。 ・　題材における，一人一人の学習活動や支援の在り方が少しずつ明らかになった。
【課題】	・　国語科のアセスメントの内容について，先行研究等を基に検討し，焦点化した指導内容や題材のアセスメントについても作成を行う。 ・　一人一人の国語科の課題を明確にし，個別の指導計画の試案を作成することで，一人一人に応じた指導内容や題材，支援の在り方等についての再検討を図る。

参考文献

鹿児島大学教育学部附属養護学校(1998)：研究紀要第11集　一人一人の子供の将来の生活につながるコミュニケーション指導の取り組み

弘前大学教育学部附属養護学校(1999)：研究紀要第15集　一人一人の主体性を大切にした指導

大分大学教育学部附属養護学校授業研究会（1997)：障害児教育にチャレンジ⑳　主体的に活動する子どもを育てる支援の工夫　明治図書

濱田寿美男(1996)：これからの障害児教育ー能力の視点から意味の視点へー　養護学校の教育と展望106号　　日本アビリティーズ協会

財団法人安田生命社会事業団(1995)：個別教育計画の理念と実践　－ＩＥＰ長期調査研究報告書－

東京都教育庁(1997)：障害のある児童・生徒のための個別指導計画Ｑ＆Ａ　株式会社文久堂

文部省(1999)：盲学校，聾学校及び養護学校　幼稚部教育要領　小学部・中学部学習指導要領　高等部学習指導要領